
健全な男と女

柳原史弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健全な男と女

【Nコード】

N1177T

【作者名】

柳原史弥

【あらすじ】

気がつけば二人つきり！？

今、理性と欲望の壮大（？）な戦いが始まる！！

目を覚ますと、俺の布団で真利子まりこが眠っていた。
時計を見ると夜中の二時。一緒に飲んでいたはずの幸雄ゆきおとさやか
が見当たらない。

（仕事で朝早いつて言ってたし、帰ったか？）
玄関まで行ってみると靴がない。やはり二人は帰ってしまったよ
うだ。

部屋に戻って、床に腰掛けたところで俺は重大なことに気がつい
た。

（真利子と二人っきりだと！）
おいおい、待ってくれ。真利子と二人っきり？ 意識してしまう
じゃないか！ 鼓動がだんだんと早くなっていき、眠気なぞ吹き飛
んでしまった。

俺はゆっくりと視線を真利子の方へと持っていた。横向きにな
って静かな寝息を立てて眠っている。俺の目をまず最初に釘付けに
したのは、黒のタイトスカートから伸びる綺麗な足、とりわけふと
ももだ。ほどよい肉付きに肌触りの良さを創造させる肌のきめ細か
さ。このふとももを見て顔を挟んでみたいと思うのは俺だけではな
いはずだ。

さて、視線を少し左にそらすとお尻が目飛び込んでくる。タイ
トスカートがぴっちり張り付いて流麗なラインが露あらわとなっている。
そのまま視線を上にあげていくと、腰のラインがこれまた素晴らし
く、白黒ストライプのシャツが実に良く映えている。腕と腕に挟ま
れて胸が強調され（真利子はEカップという立派なお胸さんを持っ
ているのだ）、肩越しに見える顔は酒のためか少し上気しており、
頬にかかる黒髪が艶かしい。

いけない、と思いつつも俺の手は真利子のふとももに伸びた。俺
はふとももが大好きなのだ。ついでに告白すると俺は真利子のこと

が大好きだ。大学時代から続く俺、幸雄、さやか、真利子の仲良し四人組の関係を壊したくなくて一度も表にだしたことの無いこの感情……それが今爆発しようとしている。

（はっ！ お、俺は何をしているんだ？）

眠っている女性によからぬことをしようとは男のことではない。それに関係を壊してしまつて良いのか？ 大学4年間で築き上げてきた大事な居場所じゃないのか？ 僅か数秒の間に思考が奔流となつて駆け巡る。手は後数ミリでふとももに触れようとしている。（ダメだ！）

強靱な理性で俺は手を引つ込めた。

だが、その時！

「ん、うゝん」

と妙に色っぽい声を発して真利子が身動きみじろした。両のふとももがくねくねと動き、俺はまるで催眠術にでもかけられたようにふとももへと吸い寄せられた。気づけば、俺の顔は鼻息がかかるほどの距離までふとももへと接近していた。というか興奮していた俺の鼻息は荒く、ふとももへ刺激を与えてしまった。

「あん」

「うわあ！」

思わず大声を上げてしまい、慌てて口を押さえる。

心臓が止まつてしまふかと思つたが、真利子起きる気配はなく俺は胸を撫で下ろした。

（ああ！ 真利子！ 真利子！）

やばい。やばいぞ、俺。だんだんと理性がきかなくなってきた。悪いことにここ一週間ほど仕事が忙しく溜まつているのだ。もう一人の俺が「いつでもいけるぜ、兄弟」と囁いてくる。「いやいや、犯罪だつて」と辛うじて残っている理性がたしなめる。でも気づけば、ぶつぶつとまるで呪文のように真利子の名をつぶやく俺がいた。「だああ！ 真利子、好きだあああ！」

人間の理性とは儚いものである。俺は真利子の上に覆いかぶさる

うとした。

「ストップ！」

「へ？」

急に真利子ができだし、悪戯な笑みを浮かべながら「め！だぞ」と言った。

可愛い……じゃなくてどういうことだ？

「途中から起きてたんだよ、あたし」

「え？ あ！ うう！ うううう！」

俺は赤面し、硬直した。あの理性と欲望の戦いを真利子に見られた？ というか思いつき「好きだああ！」と叫んでしまった。

4年間築きあげてきた俺の大事な居場所が消えてなくなってしまふ！ ああ！ 消えてなくなってしまういたい！

そんな俺の心理を知ってか知らずか、相変わらずの悪戯な笑みを浮かべながら真利子が言った。

「ふふ、あたしのこと好きなんだあ？」

「そ、その……」

「あたしも、だよ」

その後、健全な男と女である俺と真利子が、夜明けのコーヒを飲んだということは言うまでもない。

（後書き）

久しぶりの投稿です。

小説、というよりは自分の欲望を吐露しているだけのような気がします……が、生暖かい目（？）で読んでいただければ幸いです。

次回はもっと真面目な話を書きます。たぶん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1177t/>

健全な男と女

2011年10月7日06時25分発行